

金子光甫

あいも変らず。幕があいてみると、自民黨
 の世のなかである。選挙民は、そういう二
 とだ。とりかつかつて、たのたし。自民黨の他の政
 黨が政界でもとつたり。こんなことになると
 らうと心配でもあるのだらう。第一他政黨は
 政權をとつたおほえがないので、やらせてみ
 なければ、わけがわからないという賭の堅持よりも
 テレビの各黨の顔合せを見明かしても、かえ
 って不安になる。ことの方が多い、自身民さん
 ちりまた、それとしておいてもらえらるとい
 利害もあつて、選挙民は一般に、口ではとや
 かく言つていても、心では自民さんがお好き
 なのだ。琉球や、安保の問題にしても、さ
 佐藤さん程に、ともかく話をつけて来られる
 他黨の人物がいるか、ニクリンと會うにつけ
 ても先方でいい顔をしてむかえるか、どうか、
 佐藤なり少くとも、当事者としての責任があ
 り、話かうごくので、今までのゆきかかりの正
 いかという考があつて動かないのを、繁が
 かな、僕らがあんぽん丹で、野黨の人々だつ